

旅行取扱状況の概観（平成28年12月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト(KNT)とKNT個人旅行、クラブツーリズム、KNT北海道、KNT東北、KNT中国四国、KNT九州、ユナイテッドツアーズ、KNT商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比107.2%と前年を上回ったが、学生団体は同89.9%と前年を下回り、団体旅行合計で同97.1%と前年を下回った。企画旅行については前年比91.4%と前年を下回ったが、個人旅行については同111.1%と前年を上回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比98.0%と前年を下回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比61.3%、学生団体は同91.2%と前年を下回り、団体旅行合計で同78.5%と前年を下回った。企画旅行については前年比82.8%、個人旅行については同96.9%と前年を下回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比83.8%と前年を下回った。

外国人旅行は、前年比123.0%と前年を大きく上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の12月の総取扱額は前年比89.6%となり、前年を下回った。

【主要会社の状況】

1. 近畿日本ツーリスト株式会社

海外団体については、一般団体は職場旅行や研修旅行などの取扱人数の増加により、前年比103.5%と前年上回ったが、学生団体は前年の大型の育成支援事業などの影響により、同89.9%と前年を下回った。

この結果、海外団体旅行合計で同95.5%と前年を下回った。

国内団体については、一般団体は前年の地域創生交付金事業の影響により、前年比60.7%と前年を下回り、学生団体は修学旅行などの取扱人数の減少により、同91.2%と前年を下回った。この結果、国内団体旅行合計で同78.3%と前年を下回った。

外国人旅行は前年比119.9%と前年を大きく上回った。

2. 近畿日本ツーリスト個人旅行株式会社

メイトについては、方面別取扱人数の状況では、沖縄、信州方面は前年を上回ったが、その他の方面は前年を下回り取扱額で前年比74.9%と前年を下回った。

ホリデイについては、テロ等の影響が続いており、ヨーロッパ方面は引き続き不調、方面別取扱人数の状況は、アジア、オセアニア、アメリカ方面が前年を上回ったが、その他の方面は前年を下回り取扱額で前年比81.1%と前年を下回った。

3. クラブツーリズム株式会社

海外旅行部門は、ポルトガル、スペイン、エジプト、アフリカ方面が好調に推移し、テロ等の影響を受けていたヨーロッパ方面は復調傾向がみられたが、アメリカ、アジア方面が不調であり、前年比95.5%と前年を下回った。

バス旅行を除く国内旅行部門は、道東や南東北が好調に推移したが、関西、山陰山陽方面が不振であり、前年比90.1%と前年を下回った。

バス旅行部門は、伊勢南紀や中国四国方面の列車利用商品や「ふっこう割」商品が堅調に推移したが、首都圏地区の日帰り旅行が不調であり、前年比86.1%と前年を下回った。

テーマ旅行部門は、国内旅行は札所・霊場をお参りする「こころの旅」や「あるく」など、海外旅行は、ゆとりの時間を大切にした「ゆったり旅」などが好調であったが、海外の「ひとり旅」などが低迷し、前年比99.2%と前年を下回った。

以上